みのかも文化の森　年報　平成13年度

みのかも文化の森

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
みのかも文化の森とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
常設展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　常設展示室、生活体験館、民具展示館
企画展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
特別展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
市民参画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
ボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
教育普及・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
学校活用の理念と現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
施設の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
広報活動の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
利用案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

■はじめに

みのかも文化の森は美濃加茂市の生涯学習の拠点として、約９ヘクタールの森に教育センターと博物館、美術館、生活体験館、実習棟、アトリエ棟等を組み入れた複合施設として開設しました。企画展や各種講座・イベント、ワークショップ等を実施しながら多くのボランティアの皆さんとともに、広く市内外に交流の場を提供しています。

この文化の森は、建設前に資料収集と整理に二十年以上を要し、また完成までにはこれらの資料の活用と施設のあり方を十年以上かけて、何度も研究を重ねてきたソフト最優先の施設です。そのためここには本市の自然・歴史的、文化的な資料のほとんどが数多く保存され活用されています。

今年度の事業のなかでも、企画展では「クワガタ・カブトムシ見つけた！」展の開催から、夏の子ども講座や造形作家・水野政雄氏と市民のワークショップ、ナイトサファリを開催しました。常に企画展とワークショップを組み合わせた市民参加型の事業を展開しています。美術では岐阜県の移動美術館として「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展を岐阜県美術館とのタイアップ開催により多くの方々に来館を得ました。本企画展では、近代日本を代表する岐阜県出身の日本画家・川崎小虎の身辺の情景を描いた暖かみのある作品をこの地域に紹介することができました。

また、本市から誕生した坪内逍遙博士、津田左右吉博士の顕彰と同時に、野外の芝生広場では坪内逍遙が翻訳したシェークスピアの「リヤ王」を野外劇として東京から劇団を招いて上演しています。

養蚕民家を復元した生活体験館では、昔の生活様式や遊びの紹介、機織り、くどで薪を炊いてご飯を炊くなど昔ながらの伝承料理の講座やイベントに参加できます。

このような施設を活用して、市内の保育園や小中学校が、教科の学習や総合的な学習の時間でここでしかできない学習を行います。子ども達は様々な年代の人と触れ合い、ミュージアムでしかできない貴重な体験的学習をします。ここでは学習支援ボランティアの活躍を欠くことはできません。

教育センターでは土・日を問わず毎日教育相談を受け付け、電話相談や来所相談に応じています。毎日不登校の児童生徒を受け入れ、この施設の中で様々な体験をしたりボランティアの方々と接して心のケアをしながら、児童生徒の学校への復帰を期待しています。また、教職員の研修として広く市民講座を研修に組み入れながら、幅広い知識と経験を持つ教職員の育成を目指しています。

このように文化の森では、事業ごとに学芸員、教師、ボランティアが関わり、本物に触れたり歴史、自然、芸術活動等の体験をしたりして文化をはぐくむことのできるようにと考えています。教育と文化の機能を併せ持った「博学融合施設」として体験、人、情報を軸に、今後も広く「出会いの場」として施設開放していきます。オープンから１年を経過して月約１万人の入場者を受け入れ、更に郷土意識の高まる教育・文化事業も開催しています。今後とも関係機関の皆様の更なるご指導、ご協力をお願いします。

みのかも文化の森

■「みのかも文化の森」とは

みのかも文化の森は、次の4点を理念にしています。

自然との共存を目指した「みのかも文化の森」

緑豊かな開かれた「森」です。

「みのかも文化の森」には、広大な森があります。森の中の散策路を歩きながら、小鳥のさえずりや四季折々の動植物を楽しむこともできます。すばらしい環境の中でこそ、すぐれた創作活動と豊かな文化を育むことができるのではないでしょうか。この地域に存在していた自然を大切にし、安らぎに満ちた「森」を目指します。

学校教育と連携した「みのかも文化の森」

「森の学校」という考え方を持った「森」です。

「みのかも文化の森」には、この地域の文化や歴史的資料、豊かな自然がたくさんあります。それらの素材を生かしながら、様々な体験を通してより深く幅広く学習できる場、それが文化の森です。

市民の参加を中心に考える「みのかも文化の森」

市民と一体、参加型の「森」です。

「みのかも文化の森」では、市民が主人公となって活動を行う環境をこれからも整えていきます。市民の自由な発想と自発的な活動による成果こそが「みのかも文化の森」の支えとなり、原動力となると考えます。そのような市民の活動力を支えとしながら、新しい取り組みや企画が生まれてくることを願っています。互いに刺激を与え合い、この地域の教育・文化活動の高まりを目指したいと考えます。

地域に根ざした「みのかも文化の森」

地域づくりを基本に考えた「森」です。

「みのかも文化の森」は市民の日々の生活に密着し、愛されたいと考えています。教育・文化といった限定された枠の中だけでなく、広く地域の人々の生活にある課題を話し合い、理解し合い、共有し合うことのできる場を提供します。地域の人々の生活の向上が、この地域の教育・文化活動のさらなる発展の鍵を握ると考えています。

私たちは、市民一人ひとりの自己実現とともに地域社会の成長・発展も目指しているのです。

平成11年3月に発行したリーフレット「文化の森　もうすぐうまれます」より

■常設展示

1．常設展示室・川と大地

展示室に入ると、可動するカニサイの推定復元模型が来館者を迎えてくれます。これは、およそ1,900万年前のこの地域の水辺に生息していた大型哺乳動物のサイの祖先であるカニサイをモデルにしています。数点の化石に加え、木曽川の川原でその足跡が発見されました。他にも、同時代の動植物の化石や現在の木曽川にも点在する珪化木の実物資料が展示されています。また、約２億年の歴史をもった周辺の地層を構成している岩石類も間近で観察することができるため、その様子や質感を感じ取ることができるようになっています。

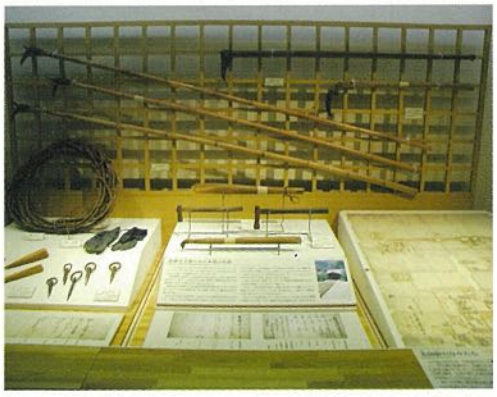
併せて、現在の動植物の様子も紹介しています。普段なかなか見ることのできない生き物たちの標本や生態について展示しています。それらは、四季の移り変わりに合わせて展示換えを行っています。

2．常設展示室・川と文化

旧石器時代及び縄文、弥生を経て中世に至るまで、美濃加茂市内の各遺跡から出土した石器や土器などの暮らしの道具や関連した資料を中心に展示しています。それらは、市域において川と共に暮らした人々、彼らの生活をうかがい知ることのできる資料として貴重なものです。

展示品には、この地方の弥生時代末～古墳時代初頭の代表的な墓群である為岡遺跡で発見された方形周溝墓に供えられた、赤彩された土器や近年大規模に調査された野笹遺跡の壺棺をはじめとする資料があります。

3．常設展示室・川と道



地理的、歴史的に交通の要衝であった美濃加茂を紹介しています。木曽川にダムが建設される昭和初期までは、イカダ流しが続けられていました。木曽や飛騨の山々で伐採された木材を運搬するため、河川が用いられていました。その木材は上流でイカダに組まれ、美濃加茂はその中継地としての機能を果たしていました。

展示室では、イカダを復元製作し、見学者がそれに乗ってカジを動かすと、実際の木曽川を川下りしていく雰囲気を画面上で体感できます。それに併せ、かつて使用されたトビザオやトビグチをはじめ木材に押した焼印等も紹介し、当時のイカダ流しの様子を

現在に伝えています。

また、江戸時代初頭に整備された五街道の一つである中山道において、難所である太田の渡しを控えた重要な宿場町として栄えたのが美濃加茂です。史料には「弘化二年太田宿家並絵図」（1845）があります。それを見ると、街道沿いに立ち並んだ家々、直角に曲がる枡形の形状や高札の位置、船頭屋敷などが詳細に記されており、宿場町の隆盛を感じさせます。

4．常設展示室・祈りの世界

この地域に暮らした人々の精神生活に関係した資料が展示されています。市内の遺跡からの出土品には、縄文時代の石棒や土偶、時代を越えて人々を飾った耳環や勾玉などの装飾品類、江戸時代に死者を葬る際に使われた龍頭や古銭、様々な木製品などがあげられます。一方、悪魔を祓ったり、豊作を祈念する芸能である獅子舞に用いられた獅子頭は、市内天神神社に伝来したものであり、その内側には長享２年（1488）の制作、正保５年（1648）の修理を記した墨書が残っています。また、神社の社殿を建替えたり、屋根を葺き替える時、工事の由緒・年月・工匠などを墨書し、天井裏に打ち付けた棟札があります。

5．常設展示室・群像美濃加茂

ここでは、美濃加茂市の文化の発展において貢献した人物を紹介するものです。明治～昭和の近代日本文学界や演劇において、先駆的、革新的な役割を果たした坪内逍遙や、日本の歴史について実証的、科学的な研究方法をした津田左右吉らの業績や愛用していた遺品、二人の交流などを示した資料が展示されています。

他には、この地方の風景を写真で残した鈴木清次郎、IMF（国際通貨基金）の理事を務めるなど、世界的に活躍をした息子の鈴木源吾、伊深とその周辺の生活の良さを再確認させた佐野一彦・えんね夫妻、美濃加茂の歴史を調査研究してまとめた神保朔郎らが紹介されています。

6．常設展示室・ミニ企画展示

様々なテーマについて、定期的に展示換えを行っており、現在２ヶ所設置されています。文化の森とその周辺からは、昔の人々の生活した跡が見つかっており、全体を尾崎遺跡と呼んでいます。これまでに見つかった竪穴住居は130軒を数え、

多くの石器や土器などが出土しました。これらの一部を紹介しています。

また、岡本一平は、この地方に古くから行われてきた「狂俳」に俳句と川柳の特性、ユーモアを盛り込んだ「漫俳」という新しい文芸を提唱、確立していきました。晩年、戦争を避けて移り住んだ一平は、1948（昭和23）年62歳、この地で死去しています。

7．生活体験館（まゆの家）

この建物の前身は明治後期に建てられた蜂屋村村長宅の主屋で、大正時代に深田に移築され、その後現在の中富町の地に再び移築されたものです。美濃加茂市内の養蚕の民家を復元したこの建物からは、密接に結びついた養蚕と当時の生活のあり方を、随所に垣間見ることができます。当館は当時の家屋の調査に基づき忠実に復元しつつ、今後も多用途の催しに活用する予定です。

本年度は生活体験館付属施設として「体験工房」を建設しました。季節の植物を使いながら染めを行うことができるように、排水施設やガス施設を設置しました。生活体験ボランティアの染めグループが中心となり、講座などに利用していく予定です。

8．民具展示館

生活体験館に隣接する民具展示館は、養蚕や蜂屋柿、農耕などに関する道具を展示・収蔵する施設です。収蔵部分には、その一部である養蚕・農耕関係の資料を保管しています。展示部分では、養蚕・蜂屋柿・農耕及び畑作・生活資料1930・ホットコーナーの各分野があります。

「養蚕」のコーナーでは主に生産農家の養蚕を対象とし、繭取りまでの過程を紹介しています。生活体験館の説明の補完的役割も果たしています。「蜂屋柿」のコーナーでは、主に生産道具の展示を行っています。本館情報コーナーの映像と合わせて見ると効果的です。「農耕関係」のコーナーでは、現在は稲の収穫後の資料を展示していますが、収穫前あるいは稲作のみならず、今後は畑作も取り上げる予定です。

「時代で読み解く民俗誌」というサブタイトルを持つ「生活資料1930」のコーナーは少し変わった趣きを持っています。昭和5年製造の墨書を持つトワウチが、当時の世相や感慨を細かく伝えることから、この資料を手がかりに、「1930(昭和5)年」の資料にこだわってみました。そこから昭和初年の時代をうかがい知ることを意図しています。

この展示室では、パソコンで、道具の使い方の解説なども行っており、学校の学習での利用も想定しています。

■企画展

「生活絵巻に見る高橋余一のまなざし－よみがえる明治から昭和－」展

（1）趣旨

高度成長期、世相の急激な移り変わりとふるさとの変化を感じ取った高橋余一は、古井町の生業・風俗・遊び・祭礼などを中心に19巻の巻物「生活絵巻」を描きあげました。この絵巻は、場面数380点、総延長96メートルに及ぶ膨大なものです。この地域だけでなく、当時の風俗を伝える貴重な資料として、1993(平成5)年には美濃加茂市の指定文化財となりました。

この展覧会では、時代ごとの風俗を描き残そうとした絵巻から、子どもの遊びや祭りを中心にご紹介しました。

（2）会期等　　2001（平成13）年4月14日（土）～5月13日（日）
　　開催日数25日間

（3）観覧料　　一般300円（200円）、小中学生150円（100円）
　　（　）は20名以上団体料金および、かるちすとくらぶ料金

（4）会場　　企画展示室

（5）展示点数　　市指定文化財「高橋余一画 生活絵巻」ほか

（6）関連事業

①懐旧談議（かいきゅうだんぎ）　古井町の移り変わりと高橋余一
（2001年5月3日13:30～16:00／会場：生活体験館／参加料無料）
古井の町や高橋余一のことなど、明治～昭和の移り変わりを古井の皆さんの思い出をもとに語っていただきました。

②獅子舞とハイボウの実演
（2001年5月12日／会場：生活体験館）
出演：平成13年度下古井の氏子（神明東自治会）の皆さん
古井神社に伝わる芸能を上演していただきました。

②「高橋余一が見た民俗芸能」
（2001年5月12日13:30～15:30／
会場：緑のホール／参加料無料）
講師：伊東久之氏（岐阜大学教授）
美濃地方の祭礼に詳しい伊東先生をお招きして、生活絵巻に描かれた古井の祭りが、美濃の祭りの中でどのような位置を占めどのような特色を持つのかなどについてお話ししていただきました。

（7）図録　　『生活絵巻に見る高橋余一のまなざし』　A5判　14頁

「クワガタ・カブトムシ 見つけた！」展

（1）趣旨

子どもたちはクワガタムシやカブトムシなどの昆虫が大好きです。夢中になって幼虫を育てたり、雑木林へ他の誰よりも負けないくらい早く起きて捕まえに行ったりします。好きなことに夢中になる天才です。このような体験が自然に親しみ、自然を正しく理解する目を育てるのかもしれません。

文化の森の自然林はどこにでも見られる里山の雑木林です。本展では、この森にすむクワガタムシやカブトムシを題材に紹介し、特に子どもたちが自然に親しみ、興味を持つことを目的としました。

また自然に親しむ第一歩として、水野政雄氏の「木ぼっくり」作品「不思議な虫たちの絵画」の展示を行いました。水野氏のユニークな動物たちの世界を楽しんでもらい、自然への興味を身近なものにしました。

（2）会期　　2001（平成13）年7月20日（金）～9月2日（日）
　　開催日数35日間

（3）観覧料　　一般200円(150円)、小中学生 100円(50円)
　　（　）は20名以上団体料金および、かるちすとくらぶ料金

（4）会場　　企画展示室

（5）資料点数　　展示資料60点、水野政雄作品55点

（6）関連事業

①子ども講座「むしの切り絵づくり」
　講師：水野政雄氏
　（2001年7月21日13：00～／会場：エントランスホール／参加料200円）

②子ども講座「昆虫体験　ナイトサファリ」
　講師：美濃加茂自然史研究会
　（2001年7月27日19：00～／8月10日
　19：00～／各回とも参加料200円）

③一般講座「虫のクラフトづくり」（アートな1日講座）　講師：水野政雄氏
　（2001年8月19日13：00～／会場：エントランスホール／参加料500円）

④映画「今森光彦の里山物語」上映会
　（2001年7月28日／14：00～／会場：緑のホール／入場無料）

⑤映画「センスオブワンダー」上映会
　（2001年8月25日／14：00～／会場：緑のホール／入場無料）

（7）パンフレット　『みのかもにすむカブトムシクワガタムシ』

「文字の登場、そして広まり―古代中世の人と文字をめぐって―」展

（1）趣旨

私たちは、生活の中で「文字」をどのように書き記しているでしょうか。また、「文字」を目にする機会は、どのような場合でしょうか。

近年、文字を取り巻く環境は以前と較べようもないほど、大きな変化が起こりました。「文字」を使った情報はインターネットの普及に伴い、迅速かつ広域に発信・受信することが可能となりました。また、「書く」という手段に加え、キーボードを用いて「入力する」こともできるようになりました。

そのような変化は私たちにとって「文字」がさらに身近で、使いやすいものになったということができるでしょう。しかし、その弊害として「氾濫」とも呼べる状況に陥ってしまったことも事実です。

今回は、過去における人と文字の関係を出土した文字資料から考察していきます。

私たちにとって、正しい形をなさない「文字」は意味を理解し合えず、使うことは許されません。けれども、表裏が逆になった逆字や文字の省略、記号状のものなど、現代人には「読む」ことの困難な文字が過去に使われ、一方で明瞭な「文字」も同時に存在していました。

現代に生きる私たちが、身近すぎて捉えにくくなってしまった文字との関わりを考える、よい機会となりました。

（2）会期　　2001（平成13）年9月22日（土）～10月28日（日）
　　開催日数32日間

（3）観覧料　　一般 500円（350円）、小中学生 250円（150円）
　　（　）は20名以上団体料金および、かるちすとくらぶ料金

（4）会場　　企画展示室、美術工芸展示室

（5）展示点数　　432点

（6）関連事業

①ミュージアムフォーラム「古代の人々と文字」
（2001年9月30 日、13:30～15:30／
会場：緑のホール／参加料無料）
講師：平川南氏（国立歴史民俗博物館　教授）

（7）図録

『文字の登場、そして広まり―古代中世の人と文字をめぐって―展』A4判　57頁

第18回岐阜県移動美術館

「川崎小虎展～暖かみあふれる自然の詩情～」

（1）趣旨

岐阜県美術館は、1982年の開館以来、県民の文化芸術創造の拠点として広く親しまれています。館にはさまざまなコレクションがありますが、その一つに日本を代表する地域ゆかりの作家の作品があります。

今回の展覧会では、その収蔵品の中から近代日本を代表する日本画家・川崎小虎（かわさきしょうこ）の作品を紹介しました。

絶えず日本画壇の先端で活躍し、描くこと一筋に生きぬいた川崎小虎。本展では、淡々として謙虚でありながら、いつも新しい感覚を大事にし、自然や何げない身辺の情景に暖かい愛情を注ぎ続けた小虎の作品を通し、その足跡をたどりました。

（2）会期　　2002（平成14）年2月9日（土）～3月24日（日）
　　開催日数37日間

（3）観覧料　　一般500円（350円）、小中学校250円（150円）
　　（　）は20名以上団体料金および、かるちすとくらぶ料金

（4）会場　　企画展示室、美術工芸展示室

（5）展示点数　　岐阜県美術館所蔵の川崎小虎作品49点ほか

（6）関連事業

①講演会「小虎芸術を探る」
（2002年2月10日　14:00～15:30／会場：緑のホール）
講師：平光明彦氏　（岐阜県美術館　館長）

②移動ハイビジョンギャラリー
（2002年3月2日～3月10日　10:00～16:00／会場：エントランスホール）

③特別展示「東山魁夷スケッチ展」
（2002年年2月9日～2月17日／
会場：展示ホール）

（7）図録

『第18回岐阜県移動美術館　川崎小虎展～
暖かみあふれる自然の詩情～』
A4変形板　36頁

■特別展示

平成13年度中に開催した展示会の中で、企画展以外の展示をご紹介いたします。

野外彫刻とその制作展

（1）趣旨

美濃加茂市では、1988年から1997年まで「美濃加茂彫刻シンポジウム」を開催しました。（社）美濃加茂青年会議所と市民有志を中心とした彫刻シンポジウム実行委員会がその運営にたずさわり、日本全国さらには世界各地から選考された作家が、約1ヶ月をかけて公開制作を行いました。入刀式に始まり、猛暑のなかでの制作、そして親子の造形教室などを通し、作家と市民との交流が図られました。

一般的に彫刻といえば具象的なブロンズ像を思い浮かべがちですが、10年を経過し、この地の人たちは抽象的な現代彫刻を彫刻としてイメージするまでに至りました。市内の各所に置かれたこれらの作品は、行き交う人々の目に触れ、身近な芸術として生活の中に少しずつ溶け込みつつあります。

このシンポジウムによって芸術に関する人々の関心が高まり、現在、市民ミュージアムを拠点としての市民参加型の新しい活動が広がりを見せています。

多くの人々の協力ですすめられた10年間の歩みについて、35点の作品とその制作風景を紹介しました。

（2）会期　2001（平成13）年12月8日（土）～2002（平成14）年1月27日（日）
開催日数35日間

（3）観覧料　無料

（4）会場　美術工芸展示室

（5）展示点数　彫刻マケット作品４点、写真パネル約35点

渡辺泰幸展

（1）趣旨

造形作家・渡辺泰幸氏は、土を主な素材として作品をつくっています。形の美しさとともに作品から発する音に触れることで、作品はより広がりをみせます。

渡辺氏によるワークショップと同時に開催し、作家と市民との交流を目指した展覧会を行いました。

（2）会期　　2001（平成13）年6月5日（火）～6月24日（日）
　　開催日数18日間

（3）観覧料　　無料

（4）会場　　企画展示室

（5）展示点数　　2点

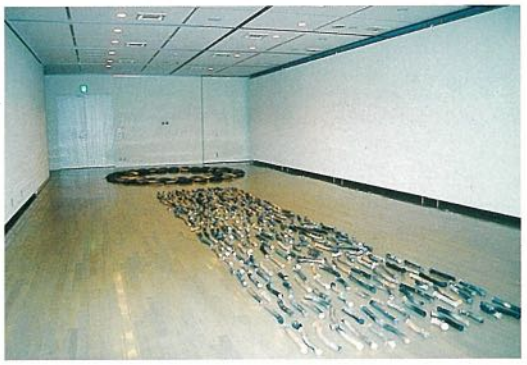
（6）関連事業

渡辺泰幸ワークショップ～渡辺泰幸さんと土を焼いて音をつくる～

6月24日（日）粘土で成形

7月22日（日）作品を野焼き

7月28日（土）作品演奏会（永田砂知子さんによる演奏会）



暮ラシカル道具展02

（1）趣旨

人は道具と共に発達し、文明を築いてきました。過去と現在とを結ぶ道具たちは、その存在もユニークで、見ているだけでも楽しくなります。今回の展示会では、昭和30年代に使用していたものを中心に展示しました。

その当時、"モノ"は、何度も直して使用していました。リサイクルではなく、壊れたら修理して使用した当時の人々のモノへの愛着。形から想像もつかないその使用方法、地域性、種類等を紹介しました。

また、この展示では学校の利用を意識して行い、学習係と学芸係が協力して学校との連携を積極的に行いました。

（2）会期　　2002（平成14）年1月16日（水）～2月17日（日）　9：00～16：00
　　開催日数28日間

（3）観覧料　　無料

（4）会場　　生活体験館（まゆの家）

（5）資料点数　　約60点

（6）関連行事

①紅花で絹を染める

（2002年1月26日 13：30～15：30／生活体験館付属施設「体験工房」／定員15名／参加費800円）

暮ラシカル道具展の関連イベントとして、体験工房の完成記念も兼ねて実施しました。紅花で美しい絹のハンカチを染めました。

②文化の森へ桶師がやってきた！

（2002年2月9日 10：30～11：30／生活体験館）

桶師の方に来ていただき、桶を直す実演を行いました。出演していただいた桶師の方から、実演に使用した道具類や桶屋の価格表など、貴重な資料をも寄贈いただきました。

■市民参画

みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムは、その理念に「市民参加を中心に考える」を挙げています。ここでは、「市民が主人公となり、自由な発想と自発的な活動」で計画・実施された催しを紹介します。

（1）春・朗読の一日

と　き　2001（平成13）年4月29日（日・祝）11:20～15:20

ところ　緑のホール、実習棟テラス、生活体験館、アトリエ

来場者　約500名

内　容　「実行委員会」（代表：高野春廣）に委託して実施。市内外の34グループ（89名）が、文化の森の４会場において自由なスタイルで朗読を行いました。来場者は会場をまわりうららかな春の１日を楽しみました。また、朗読後、生活体験館において出演者のみなさんの交流会が行われ、情報交換を行って親睦を深めました。

（2）カリヨンの夕べ

と　き　2001（平成13）年8月12日（日）18:30～

ところ　芝生広場

演　奏　渡辺典子さん、角田輝美さん

来　場　150人

内　容　2001（平成13）年5月、美濃加茂市ライオンズクラブからクラブ創立50周年記念として文化の森に寄贈されたハンガリー製のカリヨンは、1日4回、時報に合わせて懐かしい童謡などを自動演奏しています。

また、このカリヨンは、キーボードと接続することにより演奏することができ、今回、もっと多くの方々にカリヨンを聞いてもらおうと美濃加茂音楽連盟と文化の森でこの演奏会を企画しました。

当日は、家族連れら市民約150名が訪れ、森に響き渡る澄み切った音色に聞き入りました。

（3）森の朗読会

と　き　2001（平成13）年９月15日（土）14:00～15:00
2001（平成13）年10月20日（土）14:00～15:00
2001（平成13）年12月15日（土）14:00～15:00
2002（平成14）年１月19日（土）14:00～15:00
2002（平成14）年２月16日（土）14:00～15:00
2002（平成14）年３月16日（土）14:00～15:00

ところ　緑のホール

内　容　原則として毎月第3土曜日の午後（14:00～15:00）、みのかも「声のドラマ」の会のメンバーによる朗読会が行われました。出演者は会所属のグループで、童話、エッセイ、小説などを読んでいます。

（4）第2回まゆの家まつり

と　き　2001（平成13）年11月17日（土）、18日（日）、各日10:00～15:00

ところ　生活体験館

主　催　まゆの家まつり実行委員会（生活体験館ボランティア、伝承料理の会、学習支援ボランティア）

参加料　無料

参加者　一般

内　容　本年第２回目を迎えるまゆの家まつりは、テーマに「ちょっと昔の遊びと暮し～みんなで作って・みて・食べる～」と題して開催しました。ボランティアのみなさんと一緒に昔から伝わる遊びや生業を体験して、楽しく過ごしました。また、美濃加茂国際交流協会の協力を得て、日本の文化を在日外国人の方に紹介しました。

（5）朗読フェスティバル

と　き　2001（平成13）年12月1日（土）、2日（日）

ところ　緑のホール

出演など　12グループ(120名)、来場者延べ500名

内　容　平成6年度の逍遙大賞受賞者・加藤道子氏の朗読講座をきっかけに、みのかも「声のドラマ」の会（代表：森優美子）が発足し、「美濃加茂を朗読のまちに」と活動しています。放送表現教育センターの指導で講座を受講し、その成果を発表しました。あわせて指導者の講師による朗読も行われました。

（6）アートボランティアビデオ上映会

クリスト&ジャンヌ=クロード「議事堂を梱包する」

と　き　2001（平成13）年12月22日（土）　13:00～14:40

ところ　緑のホール

内　容　アートボランティアが中心となって企画、運営を行い、クリスト&ジャンヌ=クロードの「議事堂を梱包する」を上映しました。市内外から30人を超える来館者がありました。

（7）「岡本一平漫俳史料展」

と　き　2002（平成14）年1月13日（日）～1月27日（日）

ところ　企画展示室

入場者　1,120名

内　容　大正から昭和初期にかけて活躍した岡本一平は、近代漫画の祖と称され、大衆文化としての漫画の存在を確立した第一人者です。昭和20年3月、現在の（以下同じ）岐阜県加茂郡白川町に疎開した岡本一平は、同21年11月美濃加茂市に転居、同23年10月、美濃加茂市古井町で死去しました。疎開中、岡本一平は、県下各地に出向き、現地の人々と親しく交流しました。岡本一平の親しげな人柄はあたたかく疎開先の人々に迎えられました。特筆すべきことは、暗くなりがちな敗戦当時の世相の中で、漫俳という17音字の新しい文芸を興したことです。岐阜はもともと狂俳など文芸の盛んな土地柄でもあり、一平が創唱した漫俳は短期間のあいだに広まり、白川町、美濃加茂市に漫俳吟社が生まれました。

一平と疎開地での人々との交流、漫俳の活動など、当時を知る人も少なくなってきました。一平とともに、郷土に生きた私たちの先人の活動を紹介する展示を行いました。

会期中の2002年１月20日（日）には、「岡本一平を語る」と題して、一平に関わりのある方々をお迎えし、フォーラムを行いました。

展示・フォーラムの企画、運営は、「岡本一平・漫俳史料展」実行委員会のメンバーとともに行い、資料の掘り起こしや新しい人的交流などに多くの成果が得られました。

（8）バレンタインコンサート

と　き　2002（平成14）年2月16日（土）15:00～

ところ　エントランスホール

演　奏　ヴァイオリン…高橋卓也さん

ピアノ…藤田晶子さん

内　容　今回はバレンタインコンサートと題して、テレビ、ラジオ等で活躍中の高橋卓也さんによるヴァイオリンコンサートを美濃加茂音楽連盟と文化の森とで企画しました。

250人ほどの方が来場され、エントランスに響き渡るヴァイオリンの音色に「心が和み、ゆったりとした時間を過ごすことができました」等々の感想をいただき大好評でした。

■みのかも文化の森ボランティア

みのかも文化の森では、2000年10月のオープン当初から、多くの方がボランティア活動をしています。「文化の森で何かしたい」という想いを持ったボランティアの活動は、来館者と文化の森をつなぐ重要なパイプであり、文化の森の大きな特徴になっています。

1．目的

①文化の森と来館者および地域の人々との橋渡し的な役割を果たしてもらい、より親しまれる文化の森とするため。

②多様な経験や技術、柔軟な発想などを文化の森の事業や運営に生かし、利用者のサービスを充実していくため。

③市民の皆さんの自発的な学習の場と社会還元の場として文化の森を有効に利用してもらうため。

2．各ボランティアの活動内容

・展示ガイド・・・主に、常設展示室内にて展示の解説などを行います。

・アート・・・・・文化の森の講座のお手伝いや自主企画のイベントを行います。

・生活体験・・・・主に生活体験館（まゆの家）・民具展示館において、来場者への解説や講座やイベントでの講師・お手伝いを行います。

・学習支援・・・・児童・生徒が文化の森で学習する際にお手伝いをします。

・伝承料理の会・・生活体験館のクドを使い、「四季を食べる講座」でこの地域に伝わる料理を教えています。

※基本的には、ボランティアの方々の都合の良い時に活動していただいています。

3．その他

資格　18才以上ならどなたでも。経験・性別、美濃加茂市民か否かは問いません。

報酬　無償です。

特典　みのかも文化の森が主催する他館の視察や見学会に参加できます。
企画展等へ団体料金で入場ができます。
活動中、万一の事故に備え、市の負担でボランティア保険に加入いたします。

4．世話人会と広報紙「つぶらじい」編集委員会

各分野の中で2人ずつ世話人を選出します。5つの分野の世話人と文化の森の職員とで世話人会を構成します。本会は必要に応じて文化の森が会を召集し、議題について話し合います。本年度は、6月に開催した「ボランティア交流会」の内容を検討しました。また、美濃加茂市で実施している「市長と語る会」を今年度はみのかも文化の森で開催しました。文化の森ボランティアの代表として世話人が参加し、ボランティア活動についての意見交換をおこないました。

また、各分野から1名ずつ広報編集委員を選出し、3ヶ月に一度の頻度で、広報紙「つぶらじい」を発行しています。

みのかも文化の森　美濃加茂市民ミュージアム
ボランティアだより　第7号
つぶらじい
特集：声 ―「ボランティアのみなさんへ」

5．研修

ボランティアとして活動するにあたり、必要な知識や経験を学んでいただくために研修会を行います。ボランティア登録したすべての方を対象とした全体研修と個々の分野のより専門的な知識・経験を得るための個別研修があります。平成13年度中に開催した研修は下記の通りです。

（1）全体研修

①2001（平成13）年4月19、20日（土、日）企画展の展示説明会
開催中の企画展「高橋余一」展の展示説明会を開催。

②2001（平成13）年5月12日（土）企画展関連の講演会
開催中の企画展関連講演会「高橋余一が見た民俗芸能」への参加。

③2001（平成13）年5月19日（土）新規ボランティア説明会
13年度から新しくボランティアとしての参加希望者に、活動内容等について説明会を開催。

④2001（平成13）年7月27、28日（金、土）企画展の展示説明会
開催中の企画展「クワガタ・カブトムシ見つけた！」展の展示説明会を開催。

⑤2001（平成13）年9月5日（水）館外研修会
於：名古屋市美術館
ガイドボランティアの解説による常設展示室の見学の後、先方のボランティアとの交流を行いました。

⑥2001（平成13）年9月6日（木）館外研修会
於：大正村
大正村ガイドボランティアによるコースガイドのあと、先方のボランティアとの交流会を行いました。

⑦2001（平成13）年9月24、26日（月、水）企画展の展示説明会
開催中の企画展「文字の登場、そして広まり」展の展示説明会を開催。

⑧2002（平成14）年2月2日（土）接客研修
接遇の基本、接客の心構えについて研修を行いました。

⑨2002（平成14）年2月13、17日（水、日）企画展の解説会
開催中の企画展「（第18回岐阜県移動美術館）川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展の展示説明会を開催。

（2）個別研修

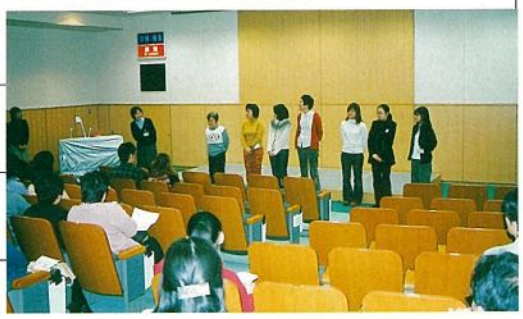
□展示ガイド

4/ 1	史跡見学会（奈良県明日香村）
4/22	イカダ講習（常設展示室のイカダに関すること、川下りの様子のビデオ解説）
5/27	播隆シンポジウム参加
6/17	「第一回津田左右吉博士を学ぶ会」へ参加
7/14	H13年度岐阜県発掘調査報告会へ参加
9/30	企画展「文字の登場、そして広まり」ミュージアムフォーラム参加
11/25	岐阜県博物館「発掘速報展～いにしえの美濃と飛騨～」見学
11/25	岐阜県博物館「水と人の歴史」講演会
2/ 3	当館ミュージアムフォーラム関連事業「中世山城を歩く」講座参加
2/17	当館「美濃加茂周辺の中世城館について」講演会へ参加

□アートボランティア

4/17	アートボランティアの日（第６回） アートな１日講座（講師・渡辺泰幸さんとの打ち合わせと作品鑑賞） アートな１日講座「石こう板版画を楽しむ」のサポート 美術工芸展示室展示作品（舩坂芳助・堀江良一　版画展）の勉強会
5/15	アートボランティアの日（第７回） アートな１日講座6/24の準備（粘土による試作）
6/3	渡辺泰幸展準備（企画展示室へ搬入のお手伝い）
6/19	アートボランティアの日（第８回） アートな１日講座6/24の最終打ち合わせ
6/24	アートな１日講座－渡辺泰幸さんと土を焼いて音をつくる－のサポート
7/17	アートボランティアの日（第９回） アートな１日講座6/24の参加者作品による演奏会の準備
7/22	アートな１日講座 6/24の参加者作品野焼き（南駐車場）
7/27	アートな１日講座 6/24の参加者作品展示と演奏会準備
7/28	アートな１日講座 6/24の参加者作品による演奏会（打楽器奏者・永田砂知子さん）
8/12	アートな１日講座 6/24の参加者作品受け渡し
8/22	アートボランティアの日（第10回） 大北利根子さん公開制作、今後の活動・ワークショップについて話し合い
9/18	アートボランティアの日（第11回） 渡辺泰幸、大北利根子ワークショップを振り返って 次回の企画「ビデオ上映会」について話し合い
10/ 2	アートボランティアの日（第12回 ビデオ上映会について打ち合わせ、12月のイルミネーションの計画
10/16	アートボランティアの日（第13回） ビデオ上映会について打ち合わせ
11/ 6	アートボランティアの日（第14回） ビデオ上映会（クリスト&ジャンヌ=クロード「議事堂を梱包する」）広報活動

11/20	アートボランティアの日（第15回） ビデオ（クリスト&ジャンヌ=クロード「議事堂を梱包する」）試写会
12/1	アートボランティアの日（第16回） ビデオ上映会準備
12/11	アートボランティアの日（第17回） ビデオ上映会最終打ち合わせ
12/22	ビデオ上映会（クリスト&ジャンヌ=クロード「議事堂を梱包する」）開催
1/29	アートボランティアの日（第18回） 今後の予定について
2/19	アートボランティアの日（第19回） 今後の予定について
3/12	アートボランティアの日（第20回） 今後の予定について



□生活体験

5/26	第1回研修会
6/14～16	第2回研修会
12/19	生活体験館大掃除
3/ 8	運営委員会開催

□学習支援

4/10	学習支援ボランティア説明会
6/16	市立下米田小学校見学（ほほえみ参観日） 津田左右吉博士記念館研修会

□伝承料理の会

5/3、4	菖蒲祭りの筍準備
11/16	まゆの家まつり準備
1/26	手作り豆腐研修

6．平成13年度の最終登録数

	展示ガイド	アート	生活体験	学習支援	伝承料理	全体(のべ)
平成13年度	11	23	33	32	44	143

※平成13年度の登録人数は、最終の人数です。登録人数は、143名。

■教育普及

1．各種講座

（1）『定期講座』

美濃加茂市民ミュージアムでは、事前に受講生を募集して継続的に行う各種講座を開講しています。それらは、市民ミュージアムの特色を生かした内容となっています。

平成13年度開講の定期講座は、「陶芸」「手作り和紙で楽しむ造形」「古文書から歴史を学ぶ」「みのかも文化財探訪」「機織り」「声のドラマ（朗読）」「木版画で年賀状」「ウールからフェルト」の計8講座です。

（2）『アートな一日講座』

市民ミュージアムに当日訪れた来館者が、気軽に美術関連の体験を行うことができる講座です。当館には、陶芸制作に伴う各種設備やフィールドとしての森に恵まれており、それらに関連したものや企画展とタイアップさせた内容で開講しています。

名　　称	開催日
石こう板版画を楽しむ	4月22日
陶芸（手びねり＋ろくろ）	5月27日
渡辺泰幸さんと土を焼いて音をつくる（アートボランティアによる企画）	6月24日
陶芸（手びねり）	7月22日
虫のクラフトづくり	8月26日
陶芸（葉の皿）	9月23日
つるで花かごをつくる	10月28日
陶芸（手びねり）	11月25日
ブッシュドノエル(切り株ケーキ)をつくる	12月23日
陶芸（手びねり＋ろくろ）	1月27日
フェルトを楽しむ	2月24日
陶芸（手びねり＋ろくろ）	3月24日

（3）『森と暮らしの体験講座』

①「四季を食べる」

市民ミュージアムで活動するボランティアである「伝承料理の会」と共に当日の来館者が、この地域で伝統的に伝わる四季折々の料理を作り味わう体験をする講座です。各家庭でそれらが作られていた頃を思い出し、語り合うことで、懐かしくあるいは新鮮な時間を過ごすものです。

②「森の体験」

市民ミュージアムの敷地内に広がる森を活動の場として、その遊び方や楽しみ方について視点を変えながら体験するものです。野鳥観察や森の間伐体験、椎茸の菌打ち等が開講されています。

市井には、長い年月をかけて自身のものとした、すばらしい技術や知識、経験を持った方々が多くいらっしゃいます。当館では、伝統的な技法にのっとり、または熟知されている“ワザ”を持つ方を特に「達人」と呼んで敬意を表すると共に、その秀でた“ワザ”を間近に目にする良い機会として行うものです。

※各講座の内容と日時

名　称	内　容	開催日
四季を食べる①	春のおむすび	4月15日
四季を食べる②	たけのこごはん	5月8日
四季を食べる③	コンニャクづくり	5月27日
四季を食べる④	豆ご飯	6月5日
四季を食べる⑤	朴葉もち	6月17日
四季を食べる⑥	初夏の素材のちらし寿司	7月3日
四季を食べる⑦	ミョウガ寿司	7月15日
四季を食べる⑧	そうめん	8月7日
四季を食べる⑨	すいとん	8月19日
四季を食べる⑩	枝豆の塩ゆで	9月4日
四季を食べる⑪	五平餅	9月16日
四季を食べる⑫	栗おこわ	10月2日
四季を食べる⑬	田舎ケンチン汁	10月21日
四季を食べる⑭	ぼたもち	11月6日
四季を食べる⑮	ヘボご飯	12月4日
四季を食べる⑯	餅つき・大歳のゴッツォ	12月16日
四季を食べる⑰	芋煮会	1月20日
四季を食べる⑱	粕汁（かすじる）	2月5日
四季を食べる⑲	ひなあられ・白酒	2月17日
四季を食べる⑳	手作り豆腐づくり	3月5日
森の体験①	茶摘み	5月13日
森の体験②	花盛りの森を歩く	6月10日
森の体験③	雨の森の生き物観察	7月8日
森の体験④	秋の虫の音を聞く	9月9日
森の体験⑤	森のどんぐりくらべ	10月14日
森の体験⑥	太郎洞池の野鳥観察	1月12日
森の体験⑦	七草粥	1月13日
森の体験⑧	森の間伐体験	2月10日
森の体験⑨	椎茸の菌打ち	3月10日
民具の達人①	５番目の達人登場	6月10日
民具の達人②	竹細工の達人	12月9日
民具の達人③	食の達人（ミソ造り）	1月27日

（4）『ミュージアムトーク』

地学、自然史、考古、歴史等の各分野から構成される常設展示室の解説を来館者に対して行うものです。一方向の説明ではなく、参加者の疑問に答えながら進めて行きます。定期的に行うものと団体見学時に行うものがあります。日本語、英語、ポルトガル語があります。

2．夏休み子ども講座

市民が地域の歴史や自然、文化に目を向け、次世代に受け継がれていくことを願うという観点から、児童・生徒が夏期休暇の期間中に親子参加型の講座を企画しました。全ての講座は、当館を活動の場としています。

（1）『むしの切り絵づくり』（2001年7月21日 13:30～15:00）

期間中に開催されていた企画展とも関連しています。身近にいる昆虫たちの切り絵づくりを行うものです。講師には、水野政雄先生をお迎えしました。

（2）『昆虫体験　ナイトサファリ』（2001年7月27日・8月10日　19:00～20:30）

期間中に開催されていた企画展とも関連しています。夜の森を探検し、ライトトラップを使って生き物たちの活動を観察するものです。講師には、美濃加茂自然史研究会をお迎えしました。

（3）『尾崎遺跡を掘る』（2001年8月4・5日 9:00～16:00）

ミュージアムの地下に残る「尾崎遺跡」を体験発掘し、出土品の整理を進めていきます。その後は、参加者が調べた結果などについて、自分だけの１冊の報告書を作ります。

（4）『森でうたた寝』（2001年8月11日　13:00～15:30）

昔なつかしい「蚊帳」の中で、午後のお昼寝を行うものです。併せて絵本の読み聞かせを行います。準備等は生活体験ボランティアが進めました。

（5）『張り子の技法でオブジェをつくる』（2001年8月24日・25日・26日　13:30～16:00）

風船などを型にして、グラスファイバーを素材に多数の作品を制作している、大北利根子さんのワークショップを開催しました。張り子の技法で、動物やランプシェードなどをつくりました。

3．博物館実習

博物館において、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる職員が学芸員です。学芸員資格は、国による資格試験もしくは大学で必要な単位を修得することによって取得することができますが、博物館学芸員養成過程を持つ各大学の要請により、下記の通り実習を実施しました。

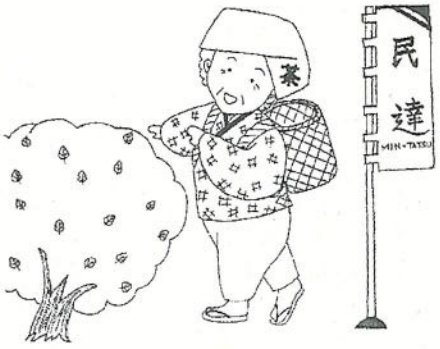
・期　　間　　2001（平成13）年8月7日（火）～8月11日（土）　9:00～17:00
・受入人員　　6名
・実習内容

日　程	午　　前	午　　後
8/ 7（火）	オリエンテーション、館内見学	市民ミュージアム建設の経緯、考古資料の取り扱いと整理
8/ 8（水）	講義「博物館とは」 講師 齊藤基生氏	民俗資料の取り扱いと整理
8/ 9（木）	展覧会の進め方、博物館資料の取り扱い	自然標本の取り扱い、標本の作り方
8/10（金）	講義「博物館と学校の関わり」、収蔵庫の環境と管理	博物館講座準備、夏休み子ども講座参加
8/11（土）	博物館資料のデータベース作り、資料の写真撮影	野外彫刻の管理、ミーティング

4．その他のイベント

（1）としこおばあちゃんの茶摘みでチャ・チャ・チャ

と　き　2001(平成13)年5月13日(日)10:00～15:00
参加料　100円
内　容　市内伊深町の大矢としこさん(としこおばあちゃん）に、農家の素朴な茶摘みから手揉み製茶の方法を伝授していただきました。地方や地域によって異なりますが、製茶業の正式なものではなく、かつてはどこでも家庭の日常消費用に行われた普通のものでした。当日は、天気もよく、気軽に参加できる楽しい体験講座で参加者の反応も上々でした。



（2）ミュージアム・ティーパーティー「紅茶の夕べ」

と　き　2001（平成13）年5月13日 18:00～20:00

ところ　アトリエ棟

定　員　20名

参加費　1,000円

内　容　紅茶研究家の高橋智子さんをお招きして、アトリエ棟にて奥深いお話を聞きながら紅茶を楽しむ講座でした。

（3）森のコンサート「ホルン五重奏」

と　き　2001（平成13）年5月19日（土）14:00～15:00

ところ　エントランスホール

内　容　”ホーン・クワイヤー・ナゴヤ”による「ホルン五重奏」を開催しました。
昔からヨーロッパに伝わるポルカやワルツを中心におなじみの曲まで演奏されました。五本のホルンが奏でる丸みをおびた音色が、心地良く響いていました。曲の合間には、ホルンについてのお話やめずらしいアルペンホルンの試奏もあり、会場のお客様による吹奏のときは笑いとともに大きな拍手がおこっていました。

（4）ミュージアムシアター

①「マクベス」　ワーナー

と　き　2001（平成13）年5月20日（日）14：00～

入場料　無料

作品紹介　シェークスピアの四大悲劇「マクベス」。初めてのカラー映画として当時話題を呼びました。

②「今森光彦の里山物語」記録映画・撮影 今村光彦

「里山から考える21世紀」実行委員会製作

と　き　2001（平成13）年7月28日（土）14：00～

入場料　無料

作品紹介　琵琶湖湖畔の里山の風景を描いたドキュメンタリー映画。

③「センス・オブ・ワンダー」原作　レイチェル・カーソン

記録映画　「センス・オブ・ワンダー」上映委員会制作

と　　き　2001（平成13）年8月25日（土）14：00　入場無料

作品紹介　原作者「レィチェル・カーソン」の探索した森や海辺を歩きながら、翻訳者である上遠恵子さんが朗読するドキュメンタリー映画。

（6）みのかも文化の森ボランティア交流会

と　き　2001（平成13）年6月23日(土)13:30～15:30

ところ　生活体験館（まゆの家）

内　容　みのかも文化の森ボランティアが行っている活動についての報告と機織りや常設・企画展示説明の体験説明会を行いました。お互いの活動に対しての理解を深めることと、一般来館者の参加も可能とすることで文化の森ボランティアの活動紹介とを意図した活動でした。

（5）渡辺泰幸ワークショップ～渡辺泰幸さんと土を焼いて音をつくる～

と　き　①2001（平成13）年6月24日（日）

手動の機械を使って粘土を絞り出し、形を作りました。

②2001（平成13）年7月22日（日）

薪、もみ殻と一緒に作品を野焼きしました。

③2001（平成13）年7月28日（土）

パーカッションの演奏家・永田砂知子さんによる作品の演奏会を行いました。

ところ　エントランスホール、南駐車場

内　容　形をつくること、そして焼いて音を聴くことをひとつのものと考え、ワークショップを開催しました。

（6）「森でうたた寝」

と　き　2001（平成13）年 8月 11日　13:00 ～ 15:30

ところ　生活体験館

定　員　20名

内　容　アニメにも登場する昔懐かしい「蚊帳(かや)」の中で、午後のお昼寝を体験しました。

（7）ミュージアムフォーラム『古代の人々と文字』

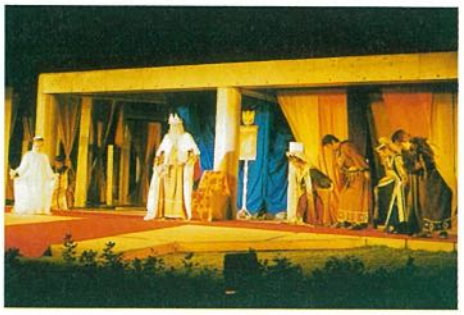
と　き　2001（平成13）年9月30日

14:00～15:30

ところ　緑のホール

内　容　講師として国立歴史民俗博物館の平川 南教授をお迎えし、『古代の人々と文字』と題して講演いただきました。企画展「文字の登場、そして広まり」の関連イベントとして、出土した文字資料を元に、当時の人々と文字の関わりについて紹介していただきました。

（8）文化の森1周年記念祭　野外劇「リヤ王」



と　き　2001(平成13)年10月6日(土)　開演18:00

ところ　実習棟前テラス

出　演　劇団 近代座

入場料　無料

内　容　文化の森オープン一周年の記念事業として開催。坪内逍遙生誕の街として、逍遙の目指した市民文芸の向上にめざしたものです。今回は、古代ブリテン史に題材をとった、シェークスピア四大悲劇中でも最も激越・悲壮な悲劇中の悲劇「リヤ王」を上演し、野外での演劇を一般市民に楽しんでもらいました。

（9）第４６回美濃加茂市美術展

と　き　2001（平成13）年11月23日～12月2日

ところ　企画展示室、美術工芸展示室、エントランスホール、展示ホール

内　容　日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の５部門あわせて２５５点を展示しました。それぞれの表現方法によって制作された作品からは、作者の意気込みが伝わってくるようで、多くの人が足を止め、見入っていました。

(10) 純さんと絵本をつくろう

と　き　2001(平成13)年12月16日（日）13:00～16:00

ところ　エントランスホール

参加者　80名（親子）

内　容　「美濃加茂コミママクラブ」（代表：榊間月絵）に委託して実施。参加者は絵本作家の高畠純さんの描いた動物や花、木などの絵から物語を創作し、切り抜いた絵を白い絵本に貼ってオリジナルの絵本をつくりました。

(11) ワークショップ『中世山城を歩く』

と　き　2002（平成14）年2月3日　14:00～16:30

ところ　市内各所

内　容　美濃加茂市内に残る山城をバスで移動・見学しました。その際、山城の姿を記録にした「縄張り図」を手にしながら歩くことで、当時の状況をはっきりと目に浮かべることができました。

(12) ミュージアムフォーラム　講演会「小虎芸術を探る」

と　き　2002（平成14）年2月10日（日）　14:00～15:30

ところ　緑のホール

講　師　平光明彦氏（岐阜県美術館　館長）

内　容　第18回岐阜県移動美術館「川崎小虎展～暖かみあふれる自然の詩情～」の関連事業として開催しました。講師として平光明彦氏をお迎えし、「小虎芸術を探る」と題して講演をいただきました。作品のスライドなどを見ながら、川崎小虎の画業をわかりやすく解説していただきました。

(13) ミュージアムフォーラム『美濃加茂周辺における中世城館について』

と　き　2002（平成14）年2月17日　14:00～15:30

ところ　緑のホール

内　容　講師として高田 徹氏（岐阜県中世城館跡総合調査員）をお迎えし、『美濃加茂周辺における中世城館について』と題して講演いただきました。数多くの資料を元に、実例を挙げながら、身近な所に現在も残っている中世城館の様子を参加者にわかりやすく解説していただきました。

(14) 民具の達人

地域に残された民具にかかわる伝統技術の経験者を顕彰しつつ、技術の公開と継承をはかることを目的として、平成12年1月に民具の達人制度を新設しました。（なお、地域とは必ずしも市内に限定せず、周辺域をも含めます。）

民具の達人の認定は、当館の生活体験ボランティア等の推薦により、文化の森・市民ミュージアムが認定を行います。民具の達人には認定証を授与し、認定者を「民具の達人」として登録します。そして、みのかも文化の森の生活体験館「まゆの家」を中心に、不定期に認定者を招き公開を行う予定です。2000（平成12）年1月の第一回認定者は次の方々でした。

大野公夫さん　美濃加茂市山之上町
わらぞうり作りをはじめとした民具全般について知っています。
わらぞうり作りの講座もしていただきました。

酒向浩さん　美濃加茂市蜂屋町
竹細工を中心にいろいろな民具を作るのが得意です。
第1回では代表して実演をしていただきました。

大矢としこさん　美濃加茂市伊深町
昔ながらのハタオリなどが得意です。
以前から何度か実演していただきました。

福田せつ子さん　美濃加茂市山之上町
地域に伝わる伝承料理を作るのが得意です。
学校の子ども達に「ナベヤキ」を伝授していただきました。

2001（平成13）年6月10日（日）の第２回認定者は、下記の木村克さんでした。紙こま作り、画用紙ロケット、大根鉄砲、バランストンボ、などの身近な素材を使った遊びを教えていただきました。また、同年12月9日（日）には、竹細工の名人による凧作りの講座も開催しました。

木村克さん　美濃加茂市加茂川町
子どもの遊び全般について、深い知識と豊かな創意、経験をお持ちです。

■学校活用の理念と現状

1　学校教育とみのかも文化の森

（1）小中学校が博物館を利用する意味

小中学校とみのかも文化の森市民ミュージアムを結びつける拠りどころは、小中学校学習指導要領との関わりです。国の教育の基準となる学習指導要領に博物館の活用が登場するのは、平成元年版の社会です。新学習指導要領には、各学年の指導計画を作成するに当たっての配慮事項として社会、理科、図画工作、美術、そして総合的な学習の時間等に、博物館や美術館、郷土資料館等の活用を図ることが示されています。そこには、諸感覚を通して実物や本物に触れる感動を味わうことは、児童生徒の知的好奇心や学習効果、表現感覚を高めるうえで、きわめて重要なことであると述べてあります。

これは、「生涯にわたる学びの場」として、ミュージアムを活用する人を育てることと重なります。みのかも文化の森市民ミュージアムには人、自然、文化に関する「本物」が収集・展示されており、それらについて科学的に調査・研究する学芸員がいます。そして児童生徒にとっては、生涯にわたって学んでいる先輩と言えるボランティアがいます。さらに、その要素を学校と結ぶ学習係がいます。児童生徒がここで具体的に学習したり、人との関わりから学んだりする体験ができるように、組織的に仕組むことによって、学校が意図する学習のねらいを、より効果的に実現させることが可能です。

（2）みのかも文化の森がめざしている学習

みのかも文化の森にある様々な資料や学芸員を活かすことによって、幅広い体験学習と深まりのある学習が可能になります。このような学習は、小中学校がみのかも文化の森を計画的・継続的に利用することが前提となります。ここでの学習は、教科学習や総合的な学習の時間のように、学校の年間指導計画（カリキュラム）に位置付いた学習であり、単元の目標を達成するための学習であることが必要です。そこで、学校と文化の森とをつなぐ役割として、学習係と文化の森活用委員会の設置があります。

①文化の森学習係

学校とみのかも文化の森との連携を密にし、このような学習を各教科・領域の年間計画に基づいた単元目標を達成するための継続的・計画的な授業とするために、みのかも文化の森には学習係が位置づけられています。学習係長は教育委員会学校教育課との兼務であり、教諭がその職に充てられています。学習係は現在４名で構成され、学校との連絡調整や学習内容の検討、来館した児童生徒の指導等を行っています。その中で最も大切にしてるのは、ここでの学習のねらいを共通理解し、学習内容や時間、担任や学習係、学芸員、学習支援ボランティアの役割分担を具体的かつ明確にするための事前打ち合わせです。

②文化の森活用委員会

文化の森活用委員会は、併設する教育センターに事務局を置いています。代表学校長を委員長に、市内の小中学校の教諭で構成され、活動プログラム作りや自校への活動紹介、年間活動計画の作成などを行っています。

2　みのかも文化の森における学習効果を上げる手だて

（1）T4として児童生徒を支援する学習支援ボランティア

みのかも文化の森では展示ガイド、アート、生活体験、伝承料理、学習支援の各ボランティアがそれぞれの活動を支えています。学校活用においては学習支援ボランティアが児童生徒の引率や館内の案内、学習の補助などの支援を行っています。現在、主婦、教員退職者等、２６名の登録があり、各自の都合に合わせて活動しています。

（2）学校と森・施設を結ぶ「ぶんぶんバス」

みのかも文化の森は市のほぼ中央に位置しますが、徒歩による来館が可能な学校は一校だけです。来館の便宜を図るために準備段階から要望し、導入したのがみのかも文化の森専用のバスです。「ぶんぶんバス」と命名されたこの４０人乗りのバスは、市内小中学校とみのかも文化の森間の送迎だけでなく、必要に応じてみのかも文化の森と他の施設間の送迎も行っています。

（3）みのかも文化の森で給食が食べられる

事前に予約をすることにより、終日の活動の際には、学校と同様みのかも文化の森でも給食をとることができるようにしました。保健所と市給食センターの指導を得て、専用の給食用ワゴン、冷蔵庫、配膳台等を用意しました。衛生面にも十分配慮をしています。

3　みのかも文化の森における学習の実際

（1）授業設計

①学校活用の年間の割り振り

年度末に各学校がみのかも文化の森を利用できる優先日を割り振り、学習係が各学校へ連絡します。この段階で、学習係はみのかも文化の森の各施設を学校が利用できるように押さえておきます。各学校では教務主任が学校の行事予定を考慮し、利用日を調整します。学習係との２回の調整を経て、新年度が始まるまでには各学校の利用日が決定されます。

②学習活動のねらいと概要を報告

利用日が近づくと、みのかも文化の森でどの教科（領域）でどのような活動を行いたいか、担任から学習係へ報告があります。美濃加茂市内の学校は、活動の概略が書き込める活動案テンプレートやバスの申請書など、記入して学習係に送れるようにネット（逍遙ネット）で結んであり、これを共に活用します。保育園や市外の学校とは、電話やＦＡＸ等で連絡を取り合います。

③担任と学習係との事前打ち合わせ

授業のおよそ２週間前に担任にみのかも文化の森に来てもらい、略案をもとに学習係と打ち合わせを行います。時には学芸員も参加し、学習を練りあいます。学習のねらいや内容について、準備するもの、バスの送迎時刻、昼食の有無など、学校側とみのかも文化の森側とが共通理解を得られるように、じっくりと話し合うようにしています。

④学習活動案（細案）の作成

事前打ち合わせをもとに、学習係が学習活動の細案を作成します。担任の指導を中心としながらも、学芸員や学習係、学習支援ボランティアがどの段階でどのような支援を行うかを明確にし、関係者全員が学習のねらいを共通理解できるように配慮します。活動案は、学校にはE-mailで届けるとともに、学習支援ボランティアを含むスタッフにも配布します。

⑤みのかも文化の森での授業

学校と同様、授業を中心に進めるのは担任です（T1）。授業の中に学芸員が入る場合はT2となり、学習係がT3、学習支援ボランティアがT4となってチームティーチングを行い、より多くの子に目を届かせ、きめの細かい指導が行えるようにしています。

（2）平成13年度学校活用例

①はじめに

平成13年度は利用学校数のべ110校余りとなり、「文化の森ならではの学習」をコンセプトに、教科の学習や総合的な学習の時間など各領域の体験学習を展開できました。様々な活動内容がありますが、そのうちのいくつかを紹介いたします。

②森のすみかつくり（小学校1、2年生　生活）

敷地内の自然観察の森を使って、小学校低学年を対象に、「森のすみかつくり」の活動をしました。木の枝、木の葉、倒木など森の中にあるものを、うまく利用して作る場合もあれば、そこに段ボールや、新聞紙、ビニルひもを組み合わせて、さらに造形活動を広げる学校もありました。生活科の内容に沿い、身の回りにある自然の材料などを用いて遊びや生活に使うものを作って、みんなで遊びなどを工夫することができた活動でした。

③わたしたちの市のようす（小学校3年生　理科・社会）

小学校3年生の理科・社会を組み合わせた学習です。社会で身近な地域を学ぶスタートに、地上23メートルの森のタワーに登って、市内の全景を見渡す活動を行いました。写真や地図で見ていた美濃加茂市の様子が、高い位置から実際に眺めることによって、確かな特徴としてとらえることができました。さらに、理科の学習として美濃加茂市に生息する蝶の標本を観察し、その説明を学芸員から聞きながら、自然観察の森でフィールドビンゴを行いました。自分達が住む美濃加茂を、違った角度から五感でとらえる学習ができました。

④縄文土器づくり（小学校6年生　社会・図画工作）

常設展示室で当地から発掘された縄文土器を観察したり、学芸員から解説を聞いたりして、自分の制作する土器のイメージをふくらませます。その後、実際に自分の手で、粘土をこねて縄文土器を制作しました。さらに、当所にある尾崎遺跡の見学や、住居跡調査、資料整理室（土器などの修復、復元をする部屋）の見学を行うなど、縄文時代に生きた人々の文化や生活に密着した学習となりました。出来上がった縄文土器は、専門家が電気炉で素焼きし、後日児童に渡しました。文化の森ならではの、代表的なプログラムの一つです。

（3）成果と課題

（3－1）成果

①学校利用が始まって1年半の間に、利用児童生徒数が延べ17,043人となり、市外の学校の利用も増えてきました。みのかも文化の森活用委員会の活動や授業をする教師、学習係の開発活動により、誰にでも取り組みやすくするための活動を展開することができてきました。

②豊かな自然のある森や、博物館の展示・施設を利用した体験学習を重ねていくうちに、学習のねらいに直結できるように、磨かれ精選されてきました。また同じ内容でも、ねらいによって様々なアプローチができるようになってきました。

（3－2）課題

①中学校の活用がまだ充実できていません。学校規模が大きく、学年全員にわたって同一のプログラムを学ぶことが難しいこと、またみのかも文化の森との往復に時間がかかることが原因であると考えます。総合的な学習の時間における課題別グループでの学習や選択教科をもとにした学習、また学習内容によっては講師の派遣という形も考えていかねばなりません。

②活用が活発になるにつれ、地域や学校からのニーズにきちんと応えていくことがさらに大切になってきました。先生方に向けては、常にみのかも文化の森にある人・もの・ことを、理解していただく活動が必要です。みんなで、このことはこんな学習に役立つな、使えそうだなというアイデアや情報を生み出しつつ、博学融合の場、生涯学習の場としてみのかも文化の森のリピーターを増やしていけたらと考えています。

■教育センター

平成4年、学校教育だけでなく、家庭・社会教育を含めた市民を巻き込んだ活動を願い、教育センターが開設されて10年目を迎えました。平成14年2月7日「教育センター10周年記念の会」が盛大に開催されました。

10周年記念講演会（岐阜大学 北俊夫先生）

1. 教育支援

あじさい教室（適応指導教室）や教育相談活動は、すばらしい自然と施設に恵まれた「みのかも文化の森」に移転して2年目が終わりました。ここならではの活動が生まれ、多くの成果が上がった一年間でした。

（1）教育相談件数及び相談傾向

来所相談・電話相談ともに、平成13年度も不登校についての相談が多く80％を超えています。次いで、家庭生活・しつけ、学校生活・園問題と続きます。件数は、210件と昨年度より60件増加しています。

今年度の相談活動の特色として、次のことがあげられます。

・1学期の後半に中学校3年生の生徒が、突然学習に興味を無くしたり、部活動に取り組む意欲を失ったりして急に休み始める事例が多くありました。

・定期的に繰り返し相談をするケースが増えてきており、回数を重ねることにより被相談者との人間関係が深まり、解決の方向も探りやすくなってきています。

・中学校の教育相談主任との懇談を月1回の割合で定期的にもてるようになり、学校との情報交流や一人一人の生徒に応じた対応の方向を絶えず話し合うことができ、連携の質が高まりました。

相談員研修会

本年度から、土曜日、日曜日など休日対応の相談員による年中無休の相談体制が整いました。（年末年始の休日を除く）

（2）適応指導教室

不登校児童生徒適応指導総合調査研究活動（SSP）の指定は2年目を迎え、あじさい教室を主たる活動場所に、人やものと直接触れ合う体験を通して心を開き自立した生活ができることを目指しました。文化の森の自然や施設、そしてここに集まってこられる人々など人的・物的環境を生かしたプログラムを用意しました。

この1年間に来所した児童生徒は、小学生8人、中学生22人、中学校卒業生1人の市内不登校児童生徒（年間最多人数）47人中31人になり、来室割合は66％で過半数を超えました。また、年間開室日数は152日、1日の最多来室人数は12人で昨年度と比較すると5人増です。新しい施設が、学校や保護者に理解され来室する垣根が低くなったのではないかと思われます。

2. 研修・研究

学校現場の要望をつかむこと、みのかも文化の森の施設を生かし、学校の活動を援助することの2点を中核に据え、教育センターの運営を行ってきました。具体的には、学校では実現しにくいことに応えること、必要としているが得にくい情報を提供すること、場や状況に応じ、貸与　E設定したりすることを行ってきました。また、情報の発信センターとしての役割も大切にしてきました。教育現場にとって、現在必要な情報および今後必要になるであろう情報などを発信することを目指しました。

（1） 研修講座

研修視察講座「上野トンネル見学会」

平成13年度の研修講座は、「授業づくり」「子どもづかみ」「2002年対策」の3つを柱として行い、教育講演会として行った6回は除いて、合計20回実施しました。特に、「最近の小学校児童の理解のために」「小学校における国際理解教育」「上野トンネル見学会」「ADHD・LDに対する具体的指導」の4講座は、校内研として参加した学校もあり、日頃の教育実践に大いに役立ったという感想を持っていただけました。また、市民参加の「お月見コンサート」では、予想をはるかに上回る350人以上の方に参加していただけたり、「英会話教室」では、申し込み受け付け開始と同時に定員に達してしまったりするほどの人気でした。

（2） 教育センター広報「ひびきあい」

教育センターの活動、学校教育の現状、学校教育の今後のあり方を積極的に知っていただくために、「ひびきあい」を発行しました。特に、平成13年度は、毎回特集記事を掲載し、各学校の特色ある活動を重点的に紹介しました。読まれた方から次のような意見をいただきました。

・写真が多くて様子がよく分かった。特集記事は詳しく、よく理解できてよかった。
・各学校の様子や市の情報を掲載していただけるのはうれしい。
・学校の活動内容がわかり、連携につながると思います。また、卒児の情報も得ることができ、懐かしく読ませていただくこともあります。

（3） ひびきあい壁新聞

それぞれの小中学校の特色を、多くの市民の方に知っていただくための一つの手段として、各学校の活動の様子を写真などで紹介する「ひびきあい壁新聞」を作成し、市役所ロビー、中央公民館、中央図書館、総合福祉会館などで展示をしました。

ひびきあい壁新聞（市役所ロビー）

（4） 教材・教具・図書資料の貸し出し

平成13年度には、新学習指導要領実施を控え、教科指導に関する図書資料の重点的な整備を行うとともに、図書資料をはじめ、教育センターが所有する教材・教具・資料などの紹介に努めました。

■施設の利用状況

1．月別来館者数

月	常設・企画展	学校活用	教育相談等	貸館・講座等	そ の 他	合 計
4月	4,035	446	338	2,031	699	7,549
5月	4,444	520	312	2,738	1,002	9,016
6月	3,036	766	492	2,234	811	7,339
7月	5,134	534	428	1,753	1,035	8,884
8月	8,524	0	368	1,735	1,202	11,829
9月	5,452	390	504	7,563	1,416	15,325
10月	3,308	1,293	339	3,443	1,036	9,419
11月	4,406	1,513	723	7,045	1,515	15,202
12月	1,920	708	326	4,350	730	8,034
1月	1,490	691	262	1,445	388	4,276
2月	2,532	854	3,194	2,074	942	9,596
3月	3,176	365	312	2,102	596	6,551
合 計	47,457	8,080	7,598	38,513	11,372	113,020

※「その他」には視察者等を含みます。

2. 視察状況

（上段：回数、下段：人数）

月	行政関係	教育・学校関係	そ の 他	合 計
4月	0回	0回	1回	1回
	0人	0人	13人	13人
5月	4回	0回	2回	6回
	59人	0人	105人	164人
6月	3回	1回	3回	7回
	29人	18人	85人	132人
7月	3回	0回	6回	9回
	70人	0人	139人	209人
8月	2回	0回	3回	5回
	25人	0人	102人	127人
9月	1回	0回	2回	3回
	20人	0人	37人	57人
10月	5回	0回	3回	8回
	92人	0人	97人	189人
11月	2回	0回	5回	7回
	25人	0人	110人	135人
12月	0回	0回	0回	0回
	0人	0人	0人	0人
1月	0回	0回	0回	0回
	0人	0人	0人	0人
2月	0回	0回	2回	2回
	0人	0人	70人	70人
3月	0回	0回	1回	1回
	0人	0人	10人	10人
計	20回	1回	28回	49回
	320人	18人	768人	1,106人

※行政関係には、官公庁職員、県市町村議会など。

教育・学校関係には、教職員（小中学校、保育園）の研修、家庭教育学級など。

文化の森関係には、文化の森に関わりのあるボランティアなどの団体・関係者など。

その他には、自治会関係者、民生児童委員、マスコミ関係、サークルなど上記の3区分に含まれない団体等をさします。

3. 貸館状況

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
研修室	3	130	2	900	17	277	10	322	7	370	4	134	12	549	12	448	7	805	5	223	11	413	9	346
会議室	5	164	5	1,040	8	317	6	137	6	316	6	136	13	590	19	370	12	934	14	229	14	194	11	203
工芸室	5	114	4	948	4	178	5	204	2	53	5	155	5	161	5	202	2	166	1	15	6	159	9	213
陶芸室	4	34	6	71	10	162	7	132	6	75	11	147	12	343	12	189	5	57	4	42	9	152	16	229
緑のホール	2	160	5	1,460	8	469	6	465	5	460	7	650	8	563	14	1,007	6	1,150	9	473	8	550	11	760
アトリエ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	36	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0
調理室	0	0	0	0	3	60	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
生活体験館	0	0	2	900	4	100	0	0	0	33	1	21	3	223	0	0	1	37	0	0	0	0	2	65
市民ギャラリー	4	961	1	900	0	0	0	0	0	0	1	441	0	0	0	0	2	1,200	0	0	0	0	0	0
エントランスホール	1	120	1	500	2	620	0	0	0	0	1	20	1	120	0	0	2	1,200	1	120	0	0	0	0
展示ホール	1	100	1	30	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0
計	25	1,783	27	6,749	56	2,183	34	1,260	27	1,313	37	1,704	56	2,585	65	2,231	38	5,561	34	1,102	48	1,468	59	1,831

施設の利用回数・人数には文化の森の主催行事は含みません。

1つの団体が同じ日に2つ以上の施設を利用している場合は両方の施設で人数をカウントしてあります。

また、同じ団体が同じ日に午前・午後・夜間の区分のうち、2つ以上の区分を利用している場合は、当該団体としての利用回数は1回としてカウントしています。

4．来館者アンケートの結果

みのかも文化の森では、企画展開催時に来館者アンケートを実施しました。本結果は下記の日程でおこなった来館者アンケートの５回分をまとめたものです。

・実施日と開催中の企画展名

平成13年5月12日～5月13日	「高橋余一」展
平成13年8月19日～8月20日	「クワガタ・カブトムシ見つけた！」展
平成13年8月25日～8月26日	同上
平成13年9月29日～9月30日	「文字の登場、そして広まり」展
平成14年3月23日～3月24日	「川崎小虎」展

・アンケート結果

総配布数　352枚、　総回収数　92枚、　総回収率　26.1％

1．どちらからお越しですか？

□ 美濃加茂市内	36名
□ 市外（県内）	38名
□ 岐阜県外	18名
□ 不明	1名

2．あなたの年齢は？

□ ～20歳	6名
□ ～30歳	12名
□ ～40歳	19名
□ ～50歳	13名
□ ～60歳	18名
60歳以上	24名

3．あなたの性別は？

□ 女性	5名
□ 男性	3名

4．文化の森までどのようにして来られましたか？
（交通手段ついて、複数回答可）

□ 自動車で	80名
□ 鉄道で	5名
□ コミュニティバスで	0名
□ 駅から徒歩で	1名
□ 自転車で	3名
□ その他	6名

5．どなたと来館されましたか？

□ 一人で	17名
□ 家族と	49名
□ 友人と	22名
□ その他	4名
□ 不明	1名

6．みのかも文化の森を何でお知りになりましたか？
（複数回答可）

□ 友人などから	40名
□ 文化の森の刊行物から	29名
□ 新聞や雑誌などから	12名
□ インターネットから	3名
□ 他の博物館で	5名
□ その他	3名
□ 不明	1名

7．何回目のご来館になりますか？

□ 初めて	49名
□ ２回目	10名
□ ３～５回目	19名
□ ６回目以上	14名
□ 不明	1名

8．今日はどのような目的でお越しになりましたか？（複数回答可）

- □ 展示(常設・美術工芸・民俗)を見るため　38名
- □ 企画展を見るため　36名
- □ 催事や講座に参加するため　20名
- □ 情報コーナーの利用　0名
- □ 研修や旅行のコース　0名
- □ 森で遊ぶため　4名
- □ 喫茶店を利用するため　6名
- □ 教育センターへ　0名
- □ 館内施設の利用　2名
- □ 新しい施設を一度見学するため　13名
- □ その他　5名

9．受付スタッフの対応について

- □ 良い　60名
- □ ふつう　30名
- □ 悪い　0名
- □ 不明　1名

10．職員やボランティアの対応など

- □ 良い　53名
- □ ふつう　33名
- □ 悪い　0名
- □ 不明　2名

11．展示品についてお聞かせください。

11-1．どの展示をご覧になられましたか？ご覧になられたすべての展示に印をお願いします。

- □ 企画展　67名
- □ 常設展　29名
- □ 美術工芸　5名
- □ 民具展示(生活体験館・まゆの家も含む)　14名

11-2．その展示では、どのように感じられましたか？

- 良かった。美濃加茂市史に感心を持ち、少しでも勉強していきたい。今後も文化的行事に多く参加したい。
- アートも併設されていてとても良かったです。次はこどもも連れてきます。
- ものたりない、時間が持たなかった。
- 落ち着いた雰囲気が良かった。
- 実際に触れてみることのできる展示や体験、新しい形の展示法が実践されていて面白かったです。　（主な意見を抽出）

12．今回の企画展を何でお知りになりましたか？

- □ 以前文化の森で　5名
- □ 友人などから　19名
- □ 文化の森ニュースなどから　26名
- □ 新聞や雑誌などから　10名
- □ インターネットから　1名
- □ 他の博物館で　3名
- □ 今日入館して　10名
- □ その他（ＮＨＫラジオ、家族、研究会などから）　5名
- □ 不明　2名

13．今回の企画展についてのご意見をお願いします。

- （企画展を見て）今まではあまり見ることのできない昔の生活を絵を通して見ることができ分かりやすかった。
- 生きているカブト虫をもっと見たかった。
- 陶片と文字との関わりがおもしろかった。
- 川崎展　素晴らしい作品を見せていただきました。こころが安らぎました。（主な意見を抽出）

14．みのかも文化の森へのご意見、ご要望をお聞かせください。

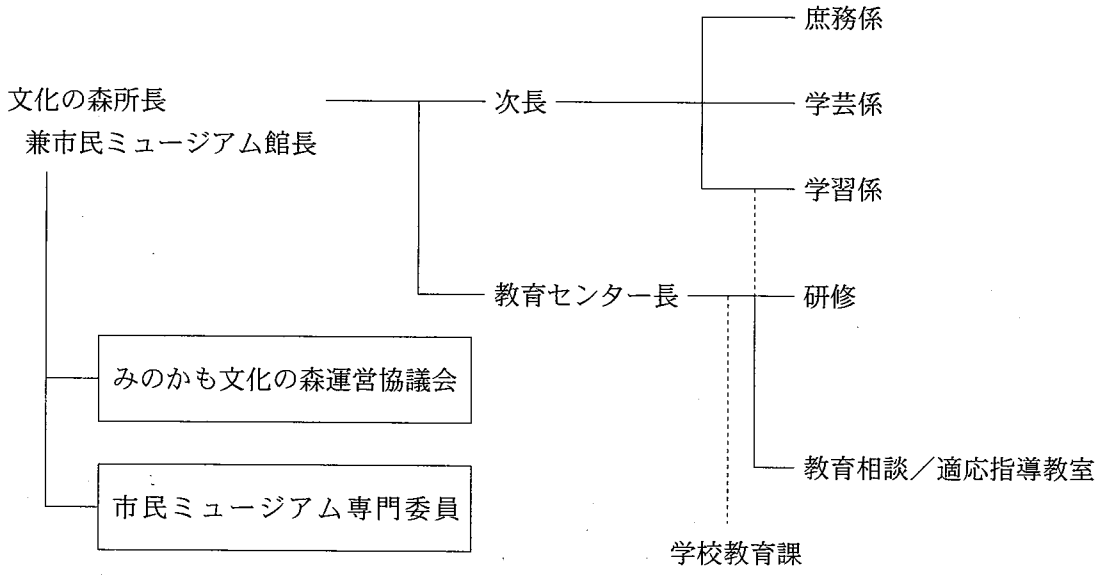
- 文化の森の交通機関が悪いので何とかならないものか。
- 入り口の戸が重い。
- 初めて訪れましたが、きれいで良かったです。もう少し展示品があるといいかな、と思いました。また来たいと思います。
- 途中の案内が少ないので迷いました。R41、R21号沿いにもう少し案内を増やしてください。（他府県から来館する人間も多いと思いますので）
- コンサートホールはつくらないのですか。
- とてもきれいで、長時間滞在したい森でした
- 今後、まわりの樹が大きくなって、本当の森になることを祈っています。　（主な意見を抽出）

■広報活動の記録

平成13年度中に掲載された主な新聞・雑誌等についてのまとめ

	掲載紙面	掲載号・日時	掲載内容
新聞関係	岐阜新聞	2001.6.2	文化の森、伝承料理の会紹介
		2001.8.14	カリヨンの夕べ
		2001.8.25	「クワガタ・カブトムシ見つけた」展
		2001.9.8	美濃加茂市児童生徒科学作品展と発明くふう展
		2001.9.16	大北利根子展紹介
		2001.9.23	「文字の登場、そして広まり」展紹介
		2001.10.2	お月見コンサート
		2001.10.10	野外劇「リヤ王」
		2001.11.2	美濃加茂市子ども展
		2001.12.18	催し案内　（高畠純さんと絵本をつくろう）
		2002.1.19	暮ラシカル展０２
		2002.1.20	学校活用
		2002.1.27	体験工房完成記念講座（草木染め）
		2002.3.23	アートな１日講座
	中日新聞	2001.4.15、18	「生活絵巻に見る高橋余一のまなざし」展紹介
		2001.5.15	獅子舞とハイボウ
		2001.8.10	カリヨンの夕べ
		2001.9.27	「文字の登場、そして広まり」展紹介
		2001.10.2	お月見コンサート
		2001.10.10	野外劇「リヤ王」
		2001.11.11	学校活用
		2001.11.16、20	まゆの家まつり
		2002.1.14	岡本一平漫俳史料展
		2002.1.17	暮ラシカル展０２、講座
		2002.1.23	フォーラム「岡本一平を語る」
		2002.2.1	暮ラシカル展０２
		2002.2.7、13	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
		2002.2.14	催し案内
	毎日新聞	2001.5.10	カリヨン除幕式
		2001.10.6	学校活用
		2002.1.18	学校活用
		2002.1.29	催し案内　（草木染め講座）
		2002.1.31	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
	読売新聞	2002.3.29	文化の森紹介
	朝日新聞	2002.1.17	学校活用
テレビ・ラジオ	東海ラジオ	2002.2.9	暮らしカル展
	NHK	2002.3.13	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
	くらしと県政	2002.3	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
雑誌関係	ぴあ	2001.12	催し案内
	ケイコとマナブ	2001.4	催し案内（講座）
	ミュゼ	2002.3、2001.8	催し案内
	博物館研究	2001.10	「文字の登場・そして広まり」展
		2001.12	文化の森紹介
		2002.2	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
		2002.2	川崎小虎展、東山魁夷スケッチ展
	地方史研究	2001.8　No.310	文化の森紹介
	タウン情報ぎふ	2001.4、2002.2	文化の森紹介
	民具マンスリー	2001.9.	伝承料理の会紹介
	新美術新聞	2002.2.1	川崎小虎展、暮ラシカル道具展
		2002.2.21	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
		2002.3.1	川崎小虎展、東山魁夷スケッチ展
その他	可茂ホームニュース	2001.10.6	文化の森紹介、朗読会
		2001.12.15	「川崎小虎－暖かみあふれる自然の詩情－」展
		2001.10.18	「文字の登場、そして広まり」展紹介
	ぽけっと	2001.12　12月	催し案内
	ぴーかん	2002.3　３月号	催し案内

■みのかも文化の森の組織図



■利用案内

開館時間	9:00～17:00（ただし、催事等があるときにはその部分のみ22:00まで開館）	
休館日	市民ミュージアム	毎週月曜日、第4火曜日、年末年始
	教育センター	土・日曜日、祝日、年末年始 （ただし、教育相談は土・日曜日、祝日も実施）
駐車場	北駐車場10台、東駐車場54台、南駐車場110台	
交通	鉄道／JR名古屋駅から美濃太田駅まで特急で40分 美濃太田駅北口から徒歩約17分 自動車／名神高速小牧ICから約35分 中央自動車道多治見ICから約35分	

みのかも文化の森　年報
（平成13年度）

編集・発行　みのかも文化の森
2003年３月31日
〒505-0004　岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1
電　話　0574-28-1110
ＦＡＸ　0574-28-1104
http://www.forest.minokamo.gifu.jp/
印　刷　有限会社 永田印刷